



岸田川水系編



ひょうごの川

自然環境
アトラス

WEB 版

冊子の目的



兵庫県では、主要な水系で『ひょうごの川・自然環境調査』を行っています。本書は、その調査結果を水系ごとにまとめた『ひょうごの川・自然環境アトラス』のWeb版です。調査結果を総合的に分析し、河川の自然環境の特徴を地図として表現しています。みなさんの身近な川について知り、考える手がかりにしてください。

◆ 身近な川の様子わかります。

この場所の水温は正常なの？どんな生き物が水温の影響を受けやすいの？など、川の自然環境をいろいろな視点から、わかりやすく解説しています。何気なく見ていた川の自然環境の特徴がわかってきます。

◆ 身近な川をどうしていくべきか、そのヒントになります。

調査結果を分析するだけでなく、その分析結果を評価・診断する視点を盛り込んでいます。川の自然環境には、良い場所も悪い場所もあります。これからの川をどうしていくべきかを考えるヒントになるはずです。

ひょうごの川・自然環境調査とは

兵庫県が先進的に取り組んでいる、川の自然環境を知るための新しい調査です。生き物とその生息に重要な環境要因との対応関係を明らかにし、人と自然が共生する川づくりを効果的に推進することを目的に、専門機関と連携し兵庫県独自の方法で進めています。



◆ これまでの調査実施状況 ※右図が対象水系

- 平成 14 年度 市川、竹田川(由良川水系)、千種川
- 平成 15 年度 須保川、岸田川、洲本川、武庫川
- 平成 16 年度 猪名川(淀川水系)、円山川、三原川、夢前川
- 平成 17 年度 明石川、加古川、矢田川



◆ 川を点ではなく面として捉えます

あらかじめテーマを設定し、効率的な調査を行うことで、従来の調査と比べ、調査地点数を大幅に増やしています。そのため、兵庫県全域を面的に捉えることができます。

◆ 生育する種とその場の環境との対応から川の課題を考えます

生き物だけを詳しく調べ、確認種のリストをつくるのではなく、水温、水質などのその場の環境要因のデータもバランスよく調査しています。その結果を分析することで、川の自然環境の状態を診断し、川づくりの課題を明らかにする調査です。

◆ 多彩な分析結果を地図として一目でわかるようにまとめています

調査結果は GIS (地理情報システム) などを活用し電子データとして蓄積しています。そのため、様々な視点で分析が可能となり、また、結果を地図として見せることにより、川づくりに関わる人々の間で、川の自然環境についての情報を共有しやすくなります。

この冊子の掲載内容

この冊子では、指標性のある生物による評価と生態系の評価の2つの視点で調査結果を評価しています。指標性のある生物は、冷水性、緩流性、回遊性、汚濁耐性の4つ、生態系は、外来種、種の多様性の2つの項目を設け、それぞれで現状と課題をまとめています。そして最後にこれらの調査結果から見えてくる河川全体の自然環境について健康診断図としてまとめています。

● 調査結果を評価する視点

◆ 指標性のある生物による評価

① 冷水性の種



川の水温が上昇すると、水の中の酸素が減って、棲めなくなる生物がいます。川の水温と冷たい水を好む「冷水性の種」の分布を確認することで、上流から下流へと冷たい水がきちんと流れているかどうかを調べます。

② 緩流性の種



泳ぎが苦手な生物や小さな水生生物、稚魚や卵が暮らすためには、川のわきにできるワンドのように、水の流れが緩やかな場所が必要となります。とくに、大きくなっても泳ぎが苦手な「緩流性の種」に注目することで、川のなかに流れが緩やかな場所が残されているかどうかを調べます。

③ 回遊性の種



川の生物のなかには、海と川を往来して暮らす回遊性をもつアユやサケ、モクズガニなどの「回遊性の種」がいます。回遊性の種の分布とその移動を妨げる横断工作物を調べることで、川のなかのつながりを調べます。

④ 汚濁耐性の種



水が汚れると、微生物が大繁殖することで酸素が激減したり、毒をもつ藻類が発生したりして、水生生物が少なくなります。そうすると、川のなかにはヒルやイトミミズの仲間のような、酸素が乏しくても生きることができる「汚濁耐性の種」ばかりになります。水質と汚濁耐性の種の分布を確認することで、川の汚れを調べます。

◆ 生態系の評価

⑤ 外来種



外来種が侵入すると、もともと日本に住んでいた在来種を食べたり、追い出したりするために、生態系のバランスが乱れます。このため、外来種が多数生息すると、いくら環境を保全しても効果が低下します。外来種の分布を確認することで、生態系の乱れを調べます。

⑥ 種の多様性



餌資源やすみかが豊富にあることで、様々な生物が共存することができます。また、水質や連続性などの状況が良好であると、生物多様性が高くなります。いわば、生態系の総合指標だと言えます。在来の生物の種数に着目して生物多様性を評価することで、生態系の総合的な状況を調べます。

◆ 評価のポイント ◆

- ・ 生物と環境の対応を評価
- ・ 6つの視点から川の状態を診断
- ・ 評価結果は地図として表現

さらに！

地図にとりまとめて総合的に評価します

● 健康診断図

人は健康診断を受け、健康状態を把握し、必要に応じて治療します。川の自然環境についても同じで、まず、健康状態を把握してから、治療（対策）の必要性を判断する必要があります。この健康診断図は、川の自然環境のカルテ（診断結果）です。今後、より良い川づくりを考えていく手がかりになります。



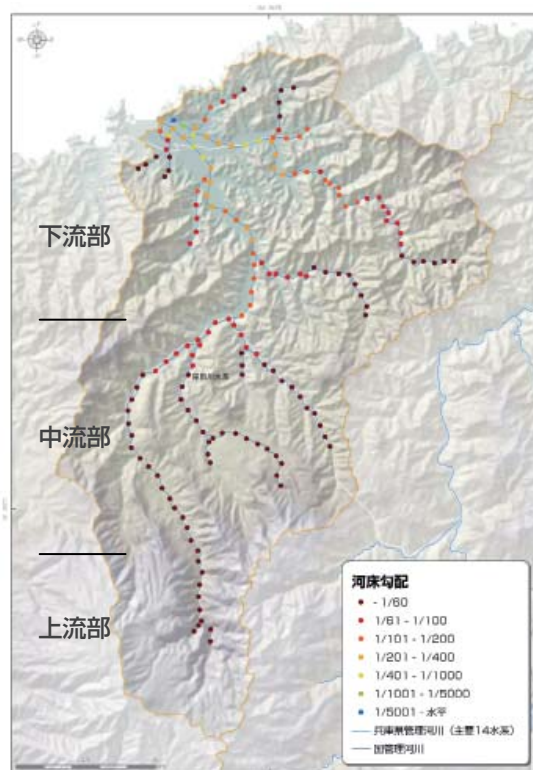
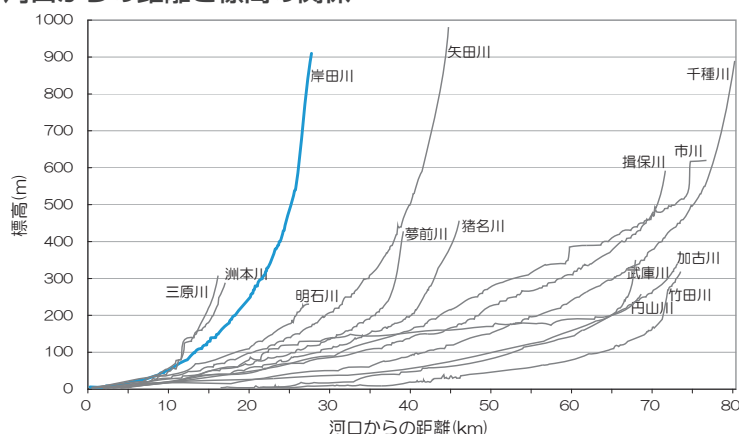
岸田川の特徴

河川の概要

岸田川は、兵庫・鳥取両県境北部に位置する扇ノ山（標高1310m）に源を発し、竹田地先で照来川、出合地先で春來川、河口部近くで久斗川等の支流と合流し、日本海に注ぐ、流域面積201km²、幹川の河川延長25kmの二級河川です。

河床勾配は、上流部で約1/60、中流部で約1/60～1/100、下流部で約1/200～1/400、河口部で約1/1000です。

● 河口からの距離と標高の関係



流域の概要

● 流域の気候

気候は、日本海気候に属します。年平均気温は15℃、年間降水量は約1,900mmです。夏は晴天が多く気温が高いこと、冬は曇り空がおおく降雪があることが特徴です。

● 水質

水質汚濁に係る環境基準の類型指定として、岸田川発電所放流水合流点から上流はA A類型（BOD75%値が1mg/l以下）、下流はA類型（BOD75%値が2mg/l以下）に指定されています。BOD75%値はいずれも環境基準を達成しており、上流からの汚濁負荷が少なく、下水道整備も進められていることから、水質は良好な状態を保っています。

● 地形・地質

地形は、上流域は1,000m級の山地に囲まれ、中流域から下流域にかけては、河岸段丘が部分的にみられ、河谷平野に水田が散在しています。

地質は、上流域は鉢伏山火山岩層の安山岩、中流域は豊岡累層に属する流紋岩や凝灰岩、下流域は花崗岩類により形成されています。また東西に湯村断層が走り、下流域の地層を分断しています。

生物の概要

ひょうごの川・自然環境調査で確認された魚類および底生動物は右表のとおりです。岸田川水系では、魚類27種、底生動物164種が確認されています。



● 水系別の魚類・底生動物の確認種数

水系名	魚類				底生動物			
	純淡水魚	通し回遊魚	汽水海水魚	総計	純淡水種	通し回遊種	汽水海水種	総計
岸田川	11	12	4	27	151	4	9	164
矢田川	18	14	6	38	137	4	4	145
円山川	31	13	1	45	207	3	1	211
竹田川	28	2	0	30	78	0	0	78
千種川	38	11	22	71	218	5	4	227
搦保川	34	4	0	38	208	2	0	210
夢前川	34	10	9	53	187	3	11	201
市川	35	8	11	54	199	5	17	221
加古川	43	7	7	57	254	4	6	264
明石川	22	6	8	36	63	3	2	68
武庫川	42	5	5	52	196	2	3	201
猪名川	24	3	0	27	95	1	0	96
三原川	16	6	15	37	90	4	10	104
洲本川	14	8	21	43	144	7	17	168
総計	50	20	39	109	409	8	44	461

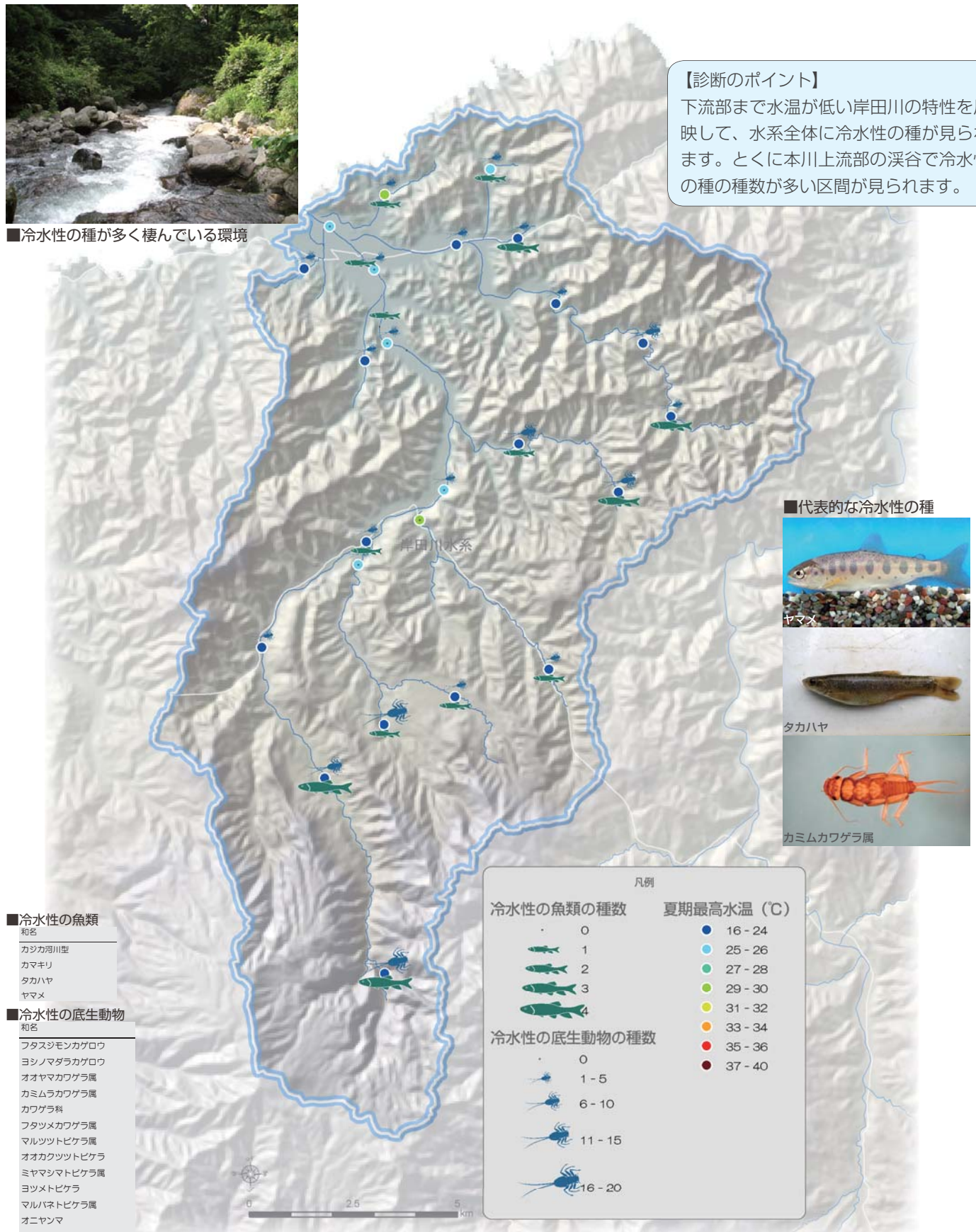
川の水温が上昇すると、水の中の酸素が減って、棲めなくなる生物がいます。「冷水性の種」は水温の上昇に敏感な種です。川の水温と冷水性の種の分布を確認することで、上流から下流へと冷たい水がきちんと流れているか、どこかで水温が異常に上昇していないかを診断しました。



■冷水性の種が多く棲んでいる環境

【診断のポイント】

下流部まで水温が低い岸田川の特徴を反映して、水系全体に冷水性の種が見られます。とくに本川上流部の渓谷で冷水性の種の種数が多い区間が見られます。



■代表的な冷水性の種



注) 岸田川水系で確認された種のみ

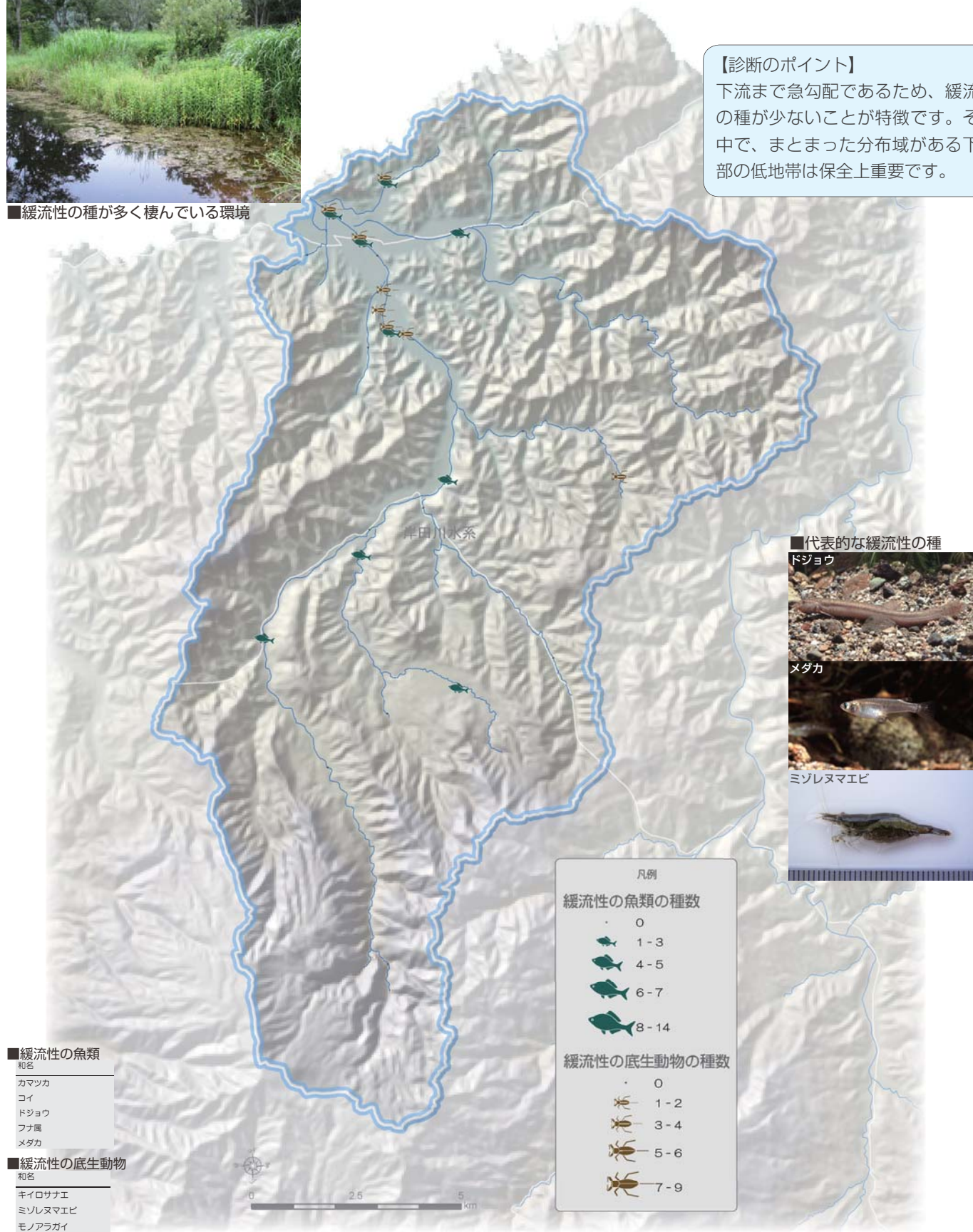
泳ぎが苦手な生物や小さな水生生物、稚魚や卵が暮らすためには、水際の植物帯や川のわきにできるワンドのように、水の流れが緩やかな場所が必要となります。とくに、大きくなっても泳ぎが苦手な「緩流性の種」に注目することで、川のなかに流れが緩やかな場所が残されているかどうかを診断しました。



■緩流性の種が多く棲んでいる環境

【診断のポイント】

下流まで急勾配であるため、緩流性の種が少ないことが特徴です。その中で、まとまった分布域がある下流部の低地帯は保全上重要です。



■代表的な緩流性の種



■緩流性の魚類

- 和名
- カマツカ
 - コイ
 - ドジョウ
 - フナ属
 - メダカ

■緩流性の底生動物

- 和名
- キイロサナエ
 - ミソレヌマエビ
 - モノアラガイ

注) 岸田川水系で確認された種のみ

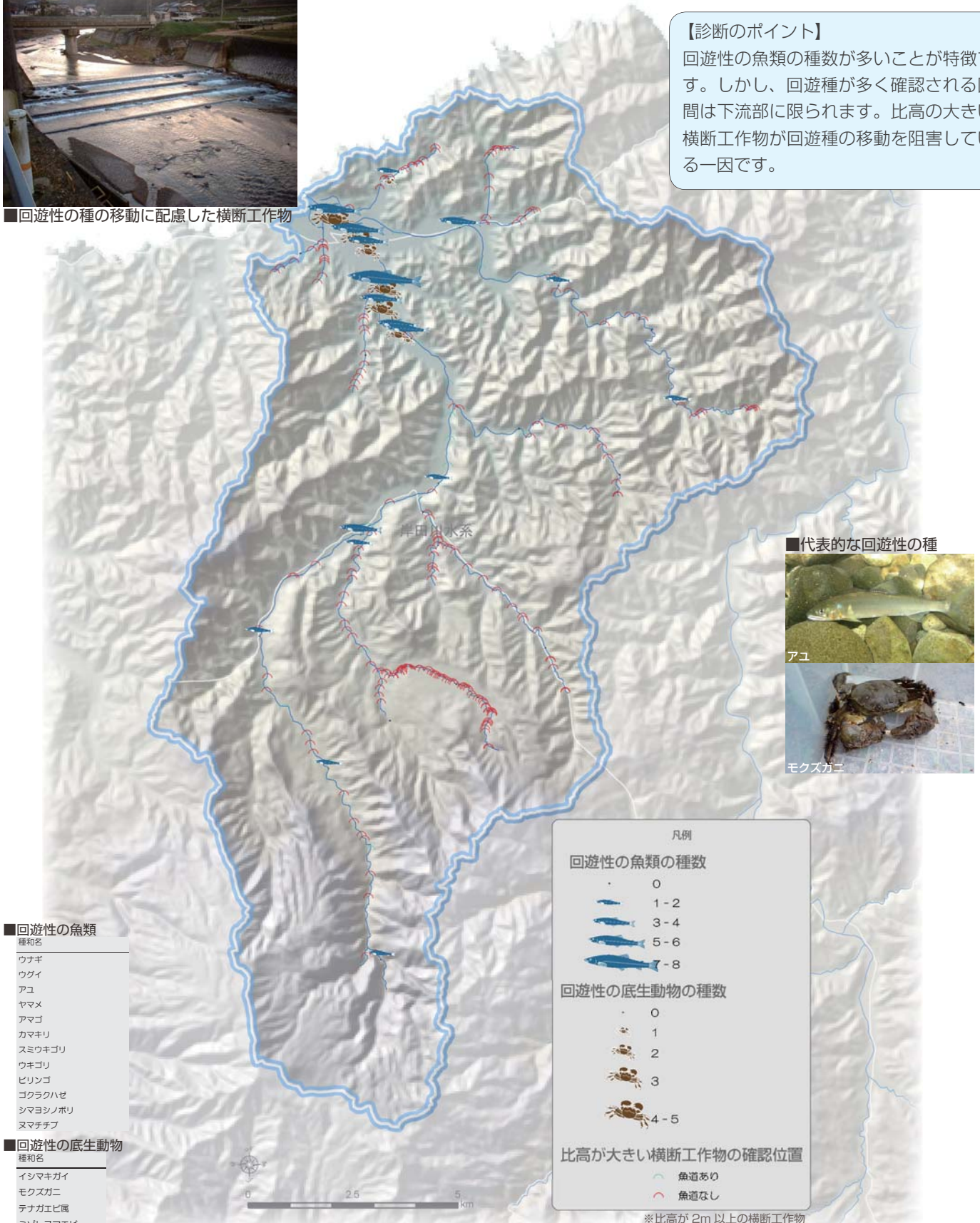
川の生物のなかには、海と川を往来して暮らす回遊性をもつ、アユやサケ、モクスガニなどの「回遊性の種」がいます。回遊性の種の分布とその移動を妨げる堰や落差工などの横断工作物の位置や魚道の有無を調べることで、川のなかのつながりを診断しました。



回遊性の種の移動に配慮した横断工作物

【診断のポイント】

回遊性の魚類の種数が多いことが特徴です。しかし、回遊種が多く確認される区間は下流部に限られます。比高の大きい横断工作物が回遊種の移動を阻害している一因です。



■代表的な回遊性の種



注) 岸田川水系で確認された種のみ

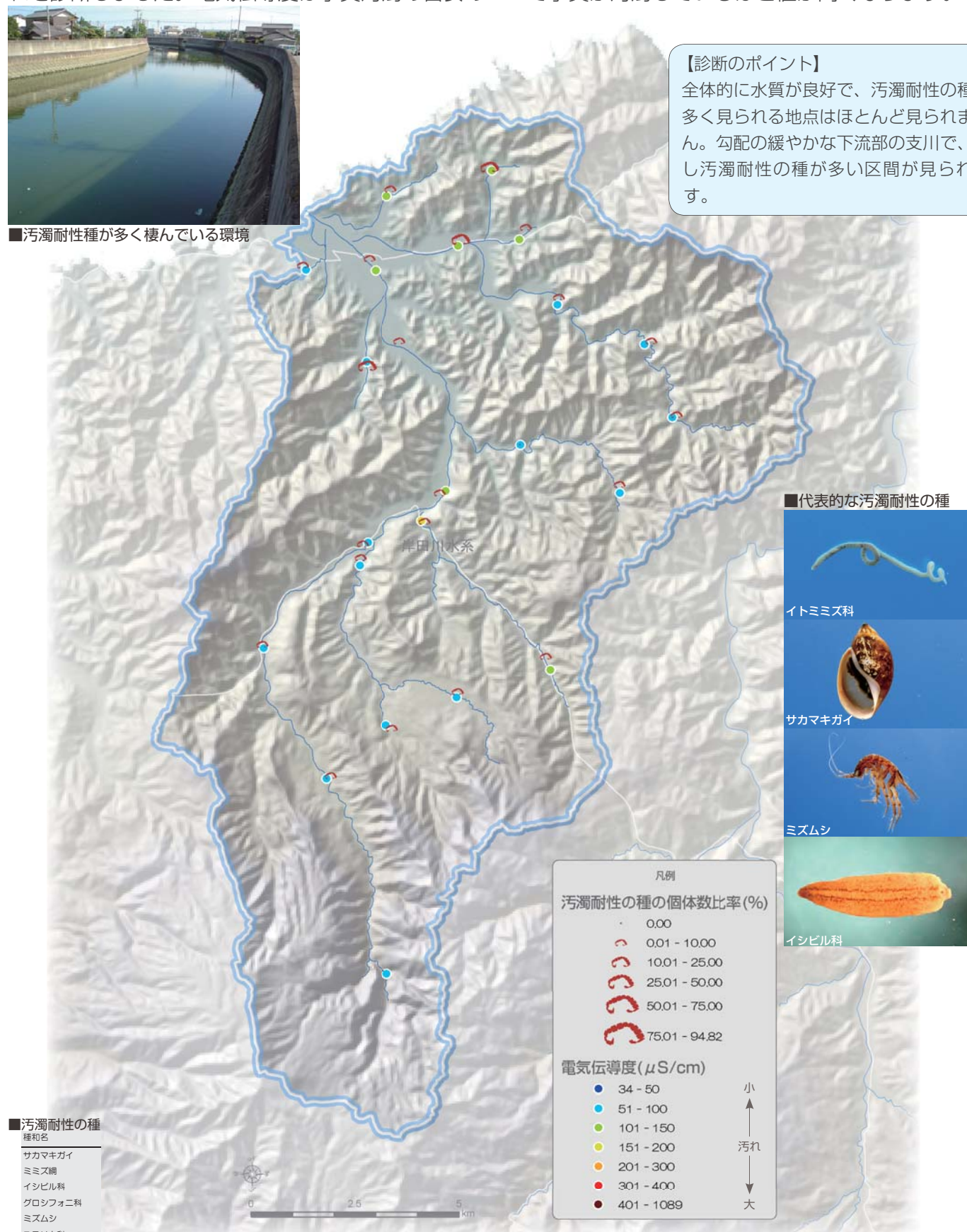
水が汚れると、微生物が大繁殖することで酸素が激減したり、ときには毒をもつ藻類が発生したりして、水生生物が少なくなります。すると、川のなかにはヒルやイトミミズの仲間のように、少しの酸素でも生きることができる「汚濁耐性の種」ばかりになります。水質と汚濁耐性の種の分布に着目して、川の汚れを診断しました。電気伝導度は水質汚濁の目安の一つで水質が汚濁しているほど値が高くなります。



■汚濁耐性種が多く棲んでいる環境

【診断のポイント】

全体的に水質が良好で、汚濁耐性の種が多く見られる地点はほとんど見られません。勾配の緩やかな下流部の支川で、少し汚濁耐性の種が多い区間が見られます。



■代表的な汚濁耐性の種



■汚濁耐性の種

- 種和名
- サカマキガイ
- ミズムシ
- イシビル科
- グロシフォニ科
- ミズムシ
- ユスリカ科

注) 岸田川水系で確認された種のみ

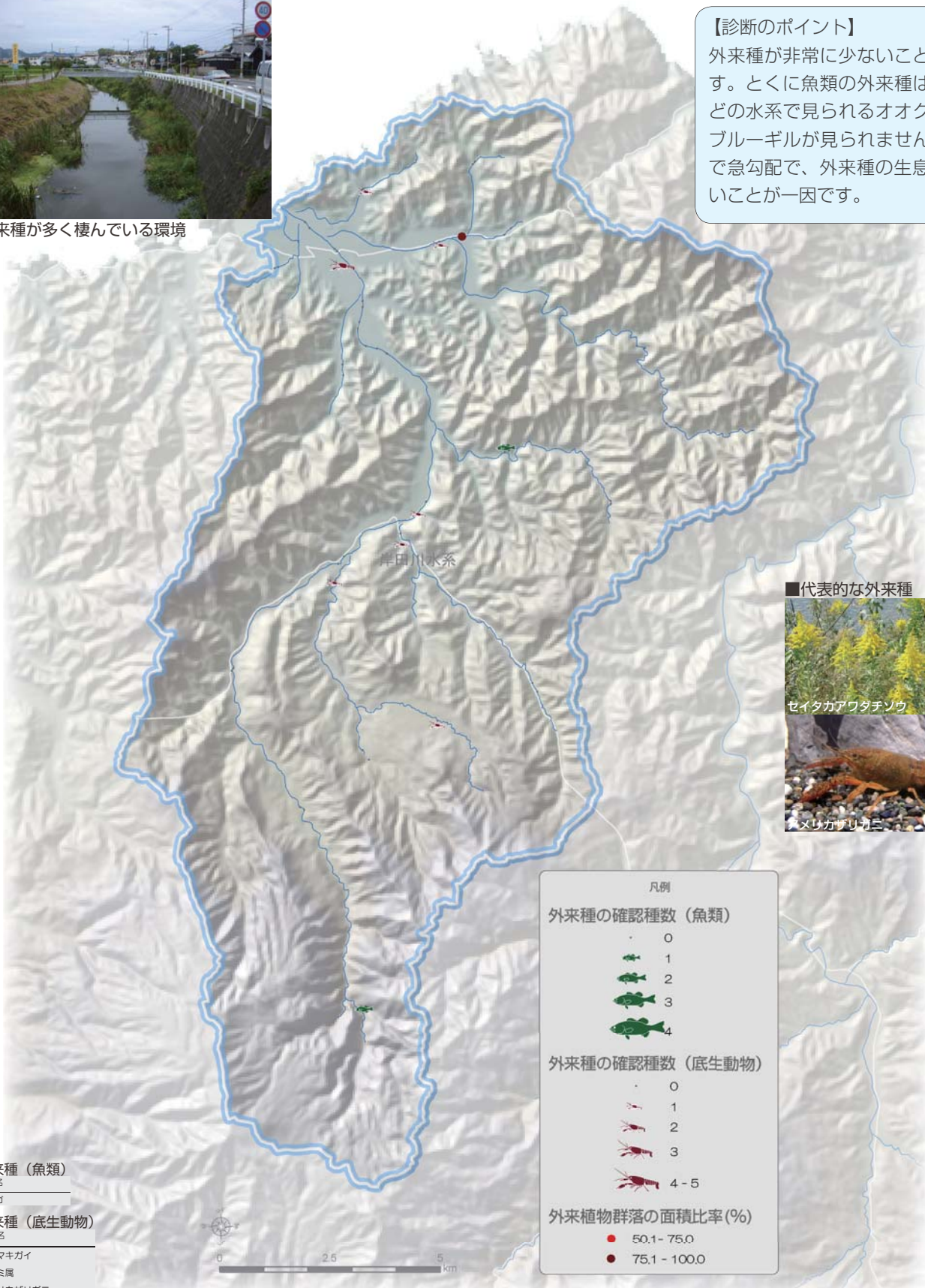
外来種が侵入すると、もともと日本に住んでいた在来種を食べたり、追い出したりするために、生態系のバランスが乱れます。このため、外来種が多数生息すると、いくら環境を保全しても効果が低下します。外来種の分布を確認することで、生態系の乱れを診断しました。



■外来種が多く棲んでいる環境

【診断のポイント】

外来種が非常に少ないことが特徴です。とくに魚類の外来種は、ほとんどの水系で見られるオオクチバスやブルーギルが見られません。下流まで急勾配で、外来種の生息に適さないことが一因です。



■代表的な外来種



■外来種（魚類）

種和名
アマゴ

■外来種（底生動物）

種和名

サカマキガイ

シジミ属

アメリカザリガニ

注) 岸田川水系で確認された種のみ

水生生物はどこに多い？

餌資源やすみかが豊富にあると、様々な生物が共存しやすくなります。一方、高い生物多様性が維持されるには、水質や連続性が良好でなければいけません。生物多様性は、生態系の総合指標ともなっています。在来の生物の種数から生物多様性を評価することで、生態系の総合的な状況を診断しました。



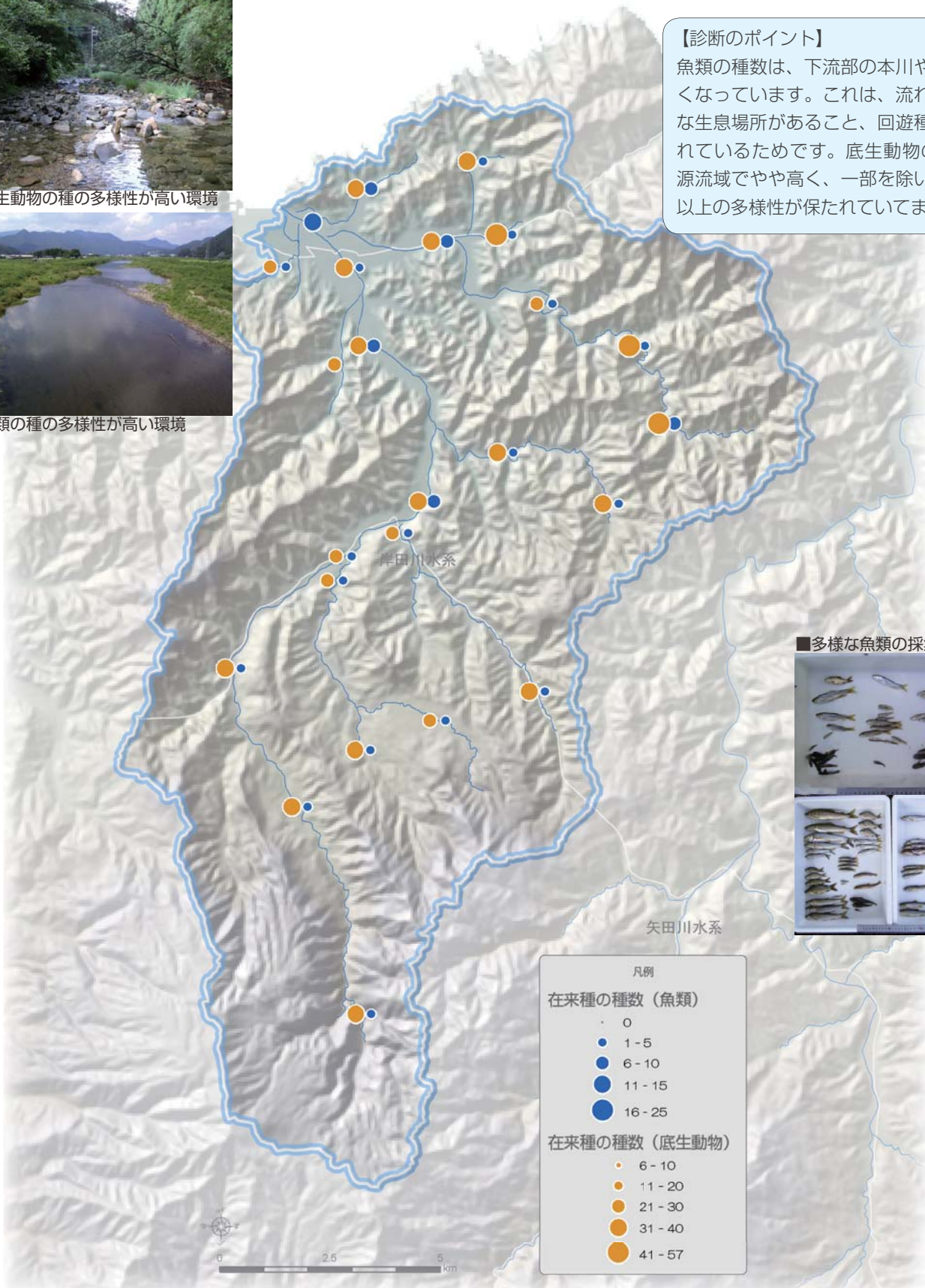
■底生動物の種の多様性が高い環境



■魚類の種の多様性が高い環境

【診断のポイント】

魚類の種数は、下流部の本川や支川で多くなっています。これは、流れが緩やかな生息場所があること、回遊種が確認されているためです。底生動物の種数は、源流域でやや高く、一部を除いて、一定以上の多様性が保たれています。



■多様な魚類の採集状況



● 急な増水に注意！

川の観察や川遊びはとても楽しいです。でも、増水すると川はとても危険な場所になります。天気や川の様子に注意してください。以下のようなときには、川に近づかないでください。

- ・大雨注意報や警報がでているとき
- ・雨が降っているとき
- ・上流の空に雨雲が見えたり、雷が鳴り出したとき
- ・川の水かさが増えてきたとき

おすすめ！

● ひょうご防災ネット <http://bosai.net/>

携帯電話のメール機能を利用して、気象警報などの緊急情報や避難情報等を発信するシステムです。携帯電話で、上記の URL にアクセスの上、自分の住んでいる市町のページからメール登録すると、急な大雨や緊急時の情報が自動的に送られてきます。



QR コードからもアクセスできます。

ひょうごの川・自然環境アトラス WEB 版 岸田川水系編

平成 21 年 3 月発行

発行 兵庫県県土整備部土木局河川計画室

〒 650-8567

兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

電話 078-341-7711 (代表)

監修 兵庫県立人と自然の博物館
